

平成30年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 協議会名称

都立清瀬高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

総務部主任＝事務局長、3学年主幹教諭 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭及び主任教諭（生活指導主任、教務主任、進路主任）
総務主任 計7名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（大学教授）1名、中学校・特別支援学校管理職3名、学習教室経営者、地域の
有識者・地域の関係者2名、同窓会の代表1名、校長が選任する保護者代表1名
計9名

2 平成30年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

第1回 平成30年 6月15日（金）午後3時40分から 内部委員7名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、学校経営計画及び本校の現状と課題の説明、
昨年度の学校運営連絡協議会の課題、意見交換

第2回 平成30年10月30日（金）午後3時45分から 内部委員7名、協議委員8名
これまでの教育活動の報告、学校評価アンケートの内容検討、意見交換

第3回 平成31年 2月14日（木）午後3時45分から 内部委員7名、協議委員7名
これまでの教育活動の報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向
けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 平成30年 6月15日（金）午後5時00分から 内部委員2名、評価委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、今年度における学校評価
アンケートの実施に向けた検討

第2回 平成30年10月30日（金）午後4時40分から 内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価アンケートの観点・項目・内容・実施時期の検討

第3回 平成31年 2月14日（木）午後3時10分から 内部委員2名、評価委員2名
アンケート集計結果の分析・考察・課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

① 生徒・保護者・教職員に対し、本校の教育活動全般について同じ評価アンケートを実施し
て比較する。

② 地域住民に対しては、学校への理解の問いかけを中心に行う。

(2) アンケートの調査時期・対象・回収数

実施時期	11月下旬	生徒	858人	回収	834人(97.2%)
		保護者	858人	回収	721人(84.0%)
		本校教職員	54人	回収	54人(100%)
		地域住民	180人	回収	164人(91.1%)

(3) 主な評価項目

学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、学校の特色、施設・設備、家庭と学校の連携、情報発信、読書活動、体罰・いじめ対策・ライフワークバランスの推進

(4) 評価結果の概要

【生徒の評価】

- ① 学校生活充実度は85%へと増加した。
- ② 授業・補習・宿題の工夫は、60%台へと回復を示した。
- ③ 土曜授業は50%中盤まで回復し、土曜講習は30%後半へとやや回復を示した。
- ④ 部活動の活発さ・学校行事の満足度は80%を超え、生徒会委員会活動は75%へと回復した。
- ⑤ 進路指導は、学年によって数字に変動があるが65～79%は満足している。
- ⑥ 施設・設備の充実は、20%中盤へと回復した。
- ⑦ 親子の会話は、80%へと増加した。学校の様子が伝わりやすくなっている。
- ⑧ 体罰・暴言への取組み・いじめ対策は共に、50%後半へと昨年度から増加。

【保護者の評価】

- ① 学校生活充実度・学校満足度は80%台を保つことができた。
- ② 授業・補習・宿題の工夫、土曜講習の満足度などは昨年度並みだが60%～後半へ微増。回答欄の「わからない」は、昨年同様に約30%回答している。
- ③ 部活動の活発さ・学校行事の満足度は80%を保っている。
- ④ 力をいれるべき点では、学習活動38.6%、進路指導30.5%、部活動15.6%、学校行事7.7%と続いた。
- ⑤ 体罰・暴言への取組みには肯定的な回答が30%半ばで微増、「わからない」が44.8%、いじめ対策の肯定的な回答が20%後半、「わからない」が47.9%であった。

【教職員の評価】

- ① 土曜授業の満足度は44.7%から37.7%と減少した。
土曜講習の満足度は52.9%から24.5%へと28.4%減少した。
- ② 保護者会・面談の充実度は、83%であったが、保護者は47.0%と依然開きがある。
- ③ 学校と家庭の連携は、83.0%であったが、保護者は38.3%とこちらも開きがある。
- ④ 体罰・暴言への取組みでは、教職員は85%を超えて、肯定的に回答している。

【地域の声】

① 54.3%の方が、地域に根差した活動をしていると評価している。

② 43.6%の方が、登下校のマナーに問題はないと評価している。

上記①②のいずれにも、「わからない」という回答が40%前後あった。

(5) 評価結果の分析・考察 (⇒は経年変化を表す。最も右が今年度の数字、↑は昨年度比を表す)

① (学校生活充実度) 生徒保護者とも回復傾向

生徒 88.7% ⇒ 87.6% ⇒ 87.3% ⇒ 81.7% ⇒ 85.6%

(1年 87.1⇒87.0% ↓ 2年 82.6⇒81.7% ↓ 3年 74.1⇒88.0% ↑)

保護者 92.1% ⇒ 94.2% ⇒ 92.3% ⇒ 81.0% ⇒ 82.3%

(1年 84.9⇒83.0% ↓ 2年 78.5⇒81.4% ↑ 3年 78.8⇒82.4% ↑)

② (授業の工夫) 授業の満足度は昨年度並みで推移

生徒 76.8% ⇒ 84.8% ⇒ 83.1% ⇒ 66.6% ⇒ 67.5%

保護者 71.6% ⇒ 78.7% ⇒ 88.9% ⇒ 32.7% ⇒ 30.7% 保護者 わからない 31.1%

③ (補習・宿題の工夫) 生徒の満足度は回復。保護者は昨年度並み

生徒 69.5% ⇒ 74.5% ⇒ 72.1% ⇒ 53.7% ⇒ 59.7%

保護者 68.3% ⇒ 69.5% ⇒ 71.3% ⇒ 32.9% ⇒ 31.6% 保護者 わからない 27.9%

④ (土曜授業の満足度) 生徒の土曜授業に対する満足度は持ち直す

生徒 58.4% ⇒ 65.6% ⇒ 64.8% ⇒ 48.1% ⇒ 54.4%

保護者 84.9% ⇒ 80.1% ⇒ 70.4% ⇒ 65.5% ⇒ 62.6% 保護者 わからない 7.1%

教職員 42.9% ⇒ 40.5% ⇒ 48.1% ⇒ 44.7% ⇒ 37.7%

⑤ (土曜講習の満足度) 教職員の土曜講習に対する満足度は大幅に減

生徒 48.8% ⇒ 57.0% ⇒ 59.3% ⇒ 32.0% ⇒ 36.0%

保護者 52.6% ⇒ 62.9% ⇒ 73.5% ⇒ 30.6% ⇒ 28.7% 保護者 わからない 26.9%

教職員 51.6% ⇒ 52.9% ⇒ 69.6% ⇒ 52.9% ⇒ 24.5%, 不参加 34.0%

⑥ (部活動は活発) ほぼ昨年度並みの傾向

生徒 92.5% ⇒ 66.0% ⇒ 67.5% ⇒ 84.9% ⇒ 83.5%

(1年 86.2% ↓ 2年 81.4% ↓ 3年 82.8% ↑)

保護者 85.0% ↓

教職員 90.7% ↓

⑦ (学校行事の満足度) ほぼ昨年度並みの傾向

生徒 66.3% ⇒ 85.7% ⇒ 89.3% ⇒ 84.5% ⇒ 85.9%

(1年 84.8% ↓ 2年 83.7% ↓ 3年 89.2% ↑)

保護者 83.5% ↓

教職員 92.6% ↓

⑧ (生徒会・委員会活動) 肯定的な回答が回復した。

生徒 54.2% ⇒ 65.7% ⇒ 75.7% ⇒ 69.7% ⇒ 74.9%

⑨（生徒の意見や悩みへの対応）生徒の肯定的な回答は大幅に増加

生徒 1年 69.0% ↑ 2年 55.1% ↑ 3年 72.3% ↑
保護者 1年 40.7% ↓ 2年 37.6% ↓ 3年 46.7% ↓ 保護者 わからない 24.2%
教職員 84.9% ↑

⑩（進路指導）1・3年生徒は増加。教職員は約20%低下。

生徒 1年 79.0% ↑ 2年 65.1% ↓ 3年 76.9% ↑
保護者 1年 55.3% ↑ 2年 48.6% ↑ 3年 47.3% ↓ 保護者 わからない 10.8%
教職員 60.4% ↓

⑪（校内清掃）生徒・教職員で回復傾向

生徒 66.8% ⇒ 52.8% ⇒ 56.2%
保護者 74.2% ⇒ 49.1% ⇒ 45.0% 保護者 わからない 20.3%
教職員 81.5% ⇒ 76.8% ⇒ 83.3%

⑫（施設・設備の充実）満足度は依然低いまま。校舎の老朽化は生徒募集等の点でも課題

生徒 46.8% ⇒ 18.3% ⇒ 24.6%
保護者 66.4% ⇒ 24.6% ⇒ 21.9% 保護者 わからない 5.8%
教職員 0% ⇒ 10.9% ⇒ 13.0%

⑬（保護者会・面談の充実度）生徒・教職員の満足度が共に増。保護者との開きがある

生徒 46.8% ⇒ 61.1% ⇒ 69.2%
(1年 78.9% ↑ 2年 65.3% ↑ 3年 63.4% ↑)
保護者 52.8% ⇒ 48.8% ⇒ 47.0% 保護者 わからない 5.6%
(1年 53.5% ↓ 2年 49.0% ↑ 3年 38.4% ↓)
教職員 76.0% ⇒ 75.0% ⇒ 83.0%

⑭（学校と家庭の連携）保護者と教職員とのずれが40%程度ある。

保護者 69.0% ⇒ 43.4% ⇒ 38.3% 保護者 わからない 8.8%
教職員 84.0% ⇒ 65.4% ⇒ 83.0%

⑮（親子の会話）ほぼ昨年度並みの傾向

生徒 69.1% ⇒ 78.6% ⇒ 79.6%
保護者 68.3% ⇒ 74.9% ⇒ 73.3%

⑯（学校満足度）ほぼ昨年度並みの傾向

生徒 85.7% ⇒ 77.3% ⇒ 77.1%
保護者 88.2% ⇒ 85.6% ⇒ 85.7%

⑰（本校の特色）部活動が約半数を占める

生徒 ①部活動 (53.2%) ②学校行事 (23.6%) ③地域に開かれた学校 (9.4%)
④学習活動 (7.8%)
保護者 ①部活動 (42.0%) ②地域に開かれた学校 (23.0%) ③学校行事 (17.8%)
④学習活動 (12.4%)
教職員 ①部活動 (51.1%) ②学習活動 (24.5%) ③学校行事 (14.9%)

⑱ (力を入れるべき点)

生徒 ①学習活動(28.6%)②学校行事(25.7%)③部活動(17.5%)④進路指導(16.9%)

保護者 ①学習活動(38.6%)②進路指導(30.5%)③部活動(15.6%)④学校行事(7.7%)

教職員 ①学習活動(40.6%)②部活動(33.3%) ③進路指導(12.5%)④学校行事(10.4%)

⑲ (読書活動推進の取組み) 教職員との隔たりが大きい

生徒 1年 14.9% ↑ 2年 10.8% ↓ 3年 19.8% ↑

保護者 1年 14.7% ↓ 2年 17.0% ↑ 3年 12.6% 保護者 わからない 39.8%

教職員 67.9% ↑

⑳㉑ (体罰・暴言やいじめ対策への取組み) 全体的に数値の改善が見られた

体罰・暴言：生徒 58.9% ↑ 保護者 34.2% ↑ 教職員 94.4% ↑ 保護者 わからない 44.8%

いじめ 生徒 57.5% ↑ 保護者 28.0% ↓ 教職員 86.8% ↑ 保護者 わからない 47.9%

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

①面談の充実や家庭との連携面において、大きな伸びしろがあることが明確になった。

②授業の工夫においては、アクティブラーニング型授業も含め、改善の余地があることが認識できた。

③生徒による積極的な地域貢献が評価され、好意的に見てくれていることがわかった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

①昨年度の結果を受けて、全体的には生徒の主観的満足度は改善傾向を示した。

②授業や面談、家庭との連携について、もう一度見直す必要があることが認識できたこと。

③広報の工夫についても、改善の余地があると指摘をもらえた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

①生徒の進路第一志望実現を目指し、文武の両立ができる生徒の育成を目指す。

②進路実現に向けた方針や取組みを、保護者会や面談を通して更なる理解促進を図る。

③都立高離れ、清瀬高校離れを防ぐため、広く PR していく方策を練る。

(2) 学習指導

①教員一人ひとりのアクティブラーニング型授業への対応力を向上させ、教科会と相互授業観察を積極的に実施させる。

②土曜講習及び長期休業中の講習等の内容を再検討し、全生徒の学習意欲の向上を図る。

③自学自習に向けた環境整備を図り、部活動とのバランスを図る指導を一層推進する。

(3) 進路指導

①各学年の三者面談を必要に応じて実施し、保護者と連携した進路指導を積極的に行う。

②外部模試、進路講演会等のキャリアガイダンスを計画的に行う。そして、部活顧問と担任が連携を図り、生徒が学習と部活動の両立を一層図れるよう指導していく。

③模擬試験の定点観測を継続し、情報の共有を図り、学校全体で生徒の進路実現を推進する。

(4) 広報活動

- ①HPの更新回数を上げ、本校の教育活動全般を家庭・地域へ発信する。
- ②引き続き、学校見学会・学校説明会等で、生徒を全面に出した取組みを継続していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 9名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
	5	2			2	

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

- (1) より一層、広報活動の工夫を図り、本校の教育活動を積極的にアピールする。
- (2) 家庭との連携に向けた方策を見直し、学校内の様子を周知できるようにする。